

1. 新型コロナ禍で Web 方式での実施が急展開

新型コロナ(COVID-19)禍で行動の自粛やイベント中止が続き、包装業界でもWeb方式による研修や会議が急速に普及した。JPI では主催する包装管理士講座 55 期を全課程 Web 方式で実施、IPP 関西支部ではミニセミナーを Web 併用で開催するなど、今までは集合しての会議や研修が主流だったが新たな取り組みが加速しつつあり、双方の利点を生かした選択が必要となっている。一方、横の連携を構築する機会が無くなった事や IT 対応の遅れなど課題も浮き彫りとなった。

2. 巣ごもり需要で食品容器特需

新型コロナウイルスの影響が、食品の容器・包装にも及んだ。小中高の休校、外出自粛要請などにより、自宅で過ごす人が増加し、食品等を買込む、巣ごもり需要が起こり、スーパーでばら売りされていたパン、総菜等が個包装に変わり、軟包装やプラスチック容器の使用量が増加した。冷凍食品、カップ麺等も売れており、その包材の使用量も増加した。また、デリバリーを使用するの注文が増加し、その為に使用する容器・包装の需要も増加した。

3. コロナ禍でよく売れた包装資材

コロナ禍で液体用のキャップ付き袋が、次亜塩素酸水用の容器代わりに猛烈な勢いで売れ始め、多くの外食店でテイクアウトが始まるとスープやカレーなどのテイクアウトに液体用のスタンディングパウチが売れ出した。またオフィスやサービス業の現場の間仕切り用としてポリエチレンのシートや塩ビシートが売れた。レジ袋はリアル店舗では削減が進んでいるが、ネット通販では前年同月比で約3倍も売れている。

4. 段ボールの用途展開進む

災害時に開設される避難所では、コロナウイルス感染防止対策の為に、段ボール製の間仕切りに注目が集まった。組み立てが簡単で、形も自由に変えられ、不要になったら再利用できる。また、会社の事務所、居酒屋等では、簡単に設置可能な段ボール製パーテーションが使用された。安価であり、軽い事が特徴である。外枠を段ボールやプラスチック段ボールで作成し、シールド部分はPVCやPETフィルムを使用した。見通しが良く開放感がある。

5. 環境対応で紙製容器の開発が広がる

イギリスの酒造企業は、ウイスキーを紙ベースのボトルで販売することを発表、同じくイギリスのベンチャー企業は、紙ボトルによるワインを販売。またデンマークの大手ビール会社では、紙製ボトルの試作品を公開。日本においてもミネラルウォーターの紙パックが注目を集めた。気候変動対策である「脱炭素化」を狙いとし、食品用や非食品用のパッケージにおいて、バリア性が付与された新たな紙製容器の開発が広がっている。

6. プラ容器の再利用・再資源化の本格的取組みが始まる

日本のプラスチックリサイクル率は80%を超えるが、内70%はサーマルリサイクル。日本企業は経済協力開発機構の国際的な基準で評価されるリサイクルに着手し始めた。メーカーと大手コンビニ・自治体・商社・スタートアップ企業などが協力して、使用後の容器を回収し再利用するシステムの構築が始まっている。また、大手企業が共同で、使用済プラスチックの再資源化事業に取り組む共同出資会社を設立する本格的な取組みも進んでいる。

7. 日本の温室効果ガス削減対応 グリーン社会の実現が加速

9月に就任した菅首相が、日本の温室効果ガスの排出量を実質、2050年にゼロにする旨の所信表明を行った。グリーン社会の実現を加速する革新的イノベーションが求められている。海洋分解性プラスチックの国際規格ISO22766 およびISO22403が発行され、大手コンビニS社採用のカフェストロー素材も認証を取得。包装分野ではバイオマス由来のポリエステル樹脂、ナイロン樹脂を使用した包装用フィルムが製品化され、他にも硬質プラスチック成形品(カップ容器やメイクアップ用品容器)が上市された。

8. AI、VRを活用した商品パッケージ開発が活発化

AI(人工知能)技術とアンケート評価を基にパッケージデザイン開発を支援するサービスや、VR(仮想現実)技術を活用し、3D生成モデルと仮想現実商品棚を組合せ、デザイン決定プロセスや消費者調査の高度化・効率化を目的としたシステムが開発された。

菓子メーカーやドリンクメーカーなどでは、デザイン決定プロセスで実際にその活用が始まった。

9. 完全ラベルレスボトルの実現

飲料メーカー各社は、ペットボトル飲料の商品ラベルが無い「ラベルレス商品」を拡充。「資源有効利用促進法」の省令改正(2020年4月1日施行)により、外装単位の販売に限り、リサイクルマークもボトルに刻むことで完全ラベルレスが実現可能となった。これにより廃棄物削減だけではなく、処分の時のラベルを剥がす手間が省けると消費者には好評。またペットボトルリサイクルの高度化にも貢献する。

10. モノマテリアル包材の開発に成功

日本企業が、リサイクル性に配慮しながらも高いバリア性を持つポリプロピレン単一素材パッケージ(モノマテリアル包材)の開発に成功した。そのパッケージはチャックを含めてポリプロピレン90%以上で、アルミ箔を使用しない2層構成だが、内容物の風味を逃がしにくい特長がある。公益社団法人日本包装技術協会が主催する、2020 ジャパンパッケージングコンテストにおいて「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞した。